研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-210		20-323	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Does thiamine protect the brain from iron overload and alcohol-related dementia?
チアミンは鉄過剰症やアルコール関連認知症から脳を保護するか？

執筆者

Stephan Listabarth , Daniel König , Benjamin Vyssoki , Simon Hametner

掲載誌

Alzheimers Dement. 2020 Nov;16(11):1591-1595. doi: 10.1002/alz.12146.

キーワード	PMID
アルコール使用障害、血液-脳関門、脳内鉄蓄積、認知機能低下、認知症、神経変性、神経毒性、チアミン	32808749

要　旨

アルコール関連認知症（ARD）は、アルコール使用障害（AUD）における一般的かつ重篤な併存疾患である。我々は、脳内鉄過剰症（BIO）が、これまで無視されてきた重要な発症プロセスであり、AUD の認知機能低下を促進することを提案する。さらに、AUD では頻繁に欠乏するチアミンが、このプロセスの重要な調節因子であることを示唆している。チアミンの欠乏は、血液脳関門の完全性を損ない、それによって鉄が脳を通過し、蓄積する。この仮説は、本稿で取り上げた動物実験、トランスレーショナルリサーチ、神経画像研究から得られた知見に基づいている。この仮説を検証するためには、AUD における脳の鉄のホメオスタシスに焦点を当てたトランスレーショナル研究や、AUD における BIO の有病率と臨床的影響を調査する前向き臨床研究を行う必要がある。もし、この仮説が正しいことが証明されれば、AUD に対する理解が変わり、AUD の予防や治療における新たな治療的介入につながる可能性がある。